

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤマト厚木物流ターミナル	階数	地上8F
建設地	愛甲郡愛川町中津字桜台4001番8,9	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	700人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2013年3月 竣工	評価の実施日	2014年1月15日
敷地面積	36,580 m ²	作成者	(株)日建設
建築面積	16,284 m ²	確認日	2014年1月15日
延床面積	90,335 m ²	確認者	(株)日建設



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.4 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値

建築物の取組み

上記+ 以外の

上記+

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

音環境 温熱環境 光・視環境 空気環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.9

生物環境 まちなみ 地域性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

建物の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>免震構造を採用するとともに十分な階高、柱スパンを確保し永続性がありフレキシビリティの高い建物としている。、外壁には断熱性能の高い鋼板パネルを採用し熱負荷の低減をはかるとともに、南側バルコニーに太陽光発電パネルを設置しCO₂の削減をはかっている。</p>	<p>その他</p> <p>場内からの発生土については場外搬出処分量が減るように極力敷地内での盛土に再利用している。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>倉庫エリアについては、保管品の紫外線劣化を避けるために自然光を入れない計画としているのに対して、事務所および食堂エリアについては南側に窓を設け室内環境の向上をはかっている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>免震構造の採用、十分な階高、柱スパンを確保し効率よく棚が配置できる計画としている。床荷重については1.5t/m²。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電パネルを設置、外壁には断熱パネルを採用し、建物の熱負荷を抑制している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体材料のリサイクル材として高炉セメント、非構造材料も3品目以上用いている。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>トラックバス、待機ヤード、駐車場、駐輪場の台数を十分に確保し、周辺道路への交通負荷を最小限にとどめる計画としている。また周辺の住宅に配慮し、防音壁を設け、車両による騒音、光害対策を行っている。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される